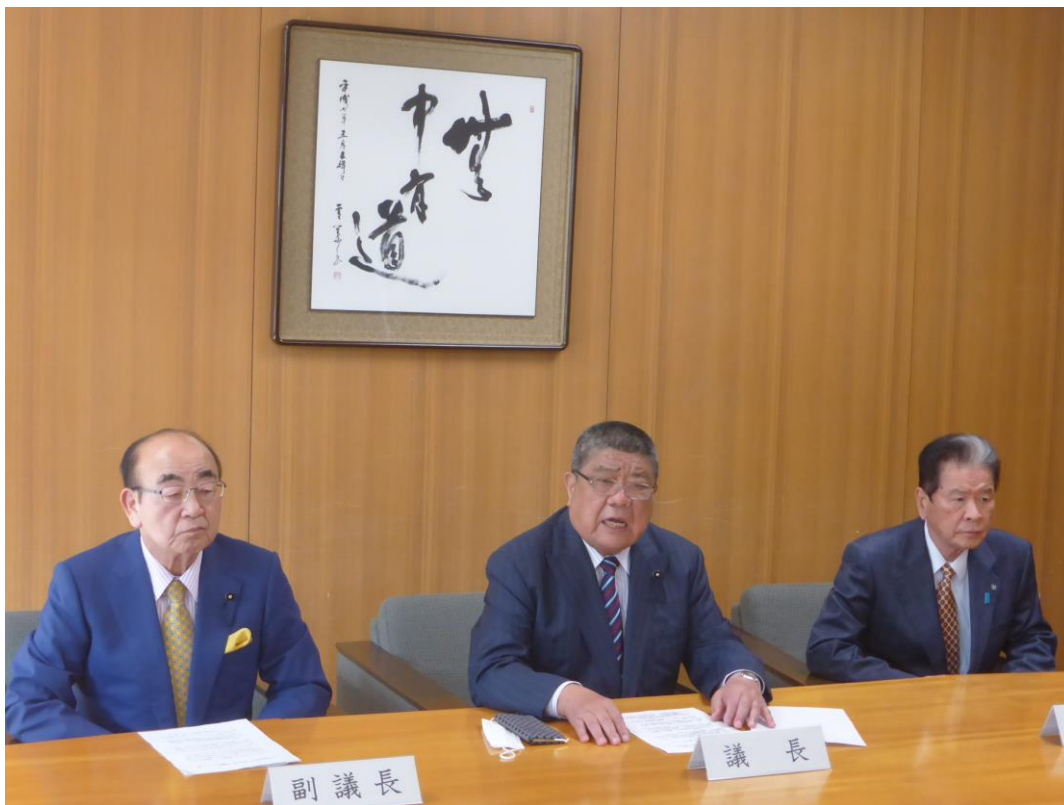


◆ 議長記者会見概要

日時：令和5年3月16日（木）15：23～15：35

場所：県議会棟理事者控室

出席者：岩田国夫議長、西川均副議長、小泉米造広報委員会座長



西川均副議長

岩田国夫議長

小泉米造広報委員会座長

<案件>

1年間の振り返り

（岩田議長）

お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

本日をもって2月定例会が閉会いたしました。昨年7月に議長に就任して以来、1年は経っていませんが、今任期における私なりの思いをお伝えしたいと思います。

議長として様々な仕事をさせていただき、あっと言う間の9ヶ月でございました。県議会は、二元代表制の一翼を担う存在として、知事部局と十分な議論を重ねてまいりました。県民が安全に安心して暮らすことができる「奈良県づくり」を行い、県を活性化させていくことが必要であると考えていますので、この思いをもちながら県議会として様々な取組を行いました。

新型コロナウイルス感染症対策についても、県民の安心と安全のため、県内の感染状

況等を見極めながら県議会として積極的に取り組んでまいりました。

ここ数年はコロナの影響もあり、議長として参加するイベントや会議が中止となっていました。最近になって県内外の公的行事へ出席する機会が徐々に増えてきました。感染症対策と並行してではありますが、社会経済活動の正常化に向けて、様々なことが動き出していると感じています。

まず、議会改革に関する取組としては、これまでも様々な事項の検討が進められてきましたが、現在、重大な感染症や大規模な災害が発生した場合に備えるために、奈良県議会においてもオンラインでの会議開催等、議会運営におけるICT技術の活用について検討を進めています。これまでは演壇での質問時に、関係する資料をパネルを使用して説明することもありましたが、それに代わるものとして、議場に大型モニターを設置することを検討しており、県民に質問内容がよりわかりやすく伝わるようになると思っています。

また、より開かれた県議会に向けた取り組みとして、8月には高校生議会、2月定例会の開会日には議場コンサートを開催したところです。

高校生議会については、議場での開催は令和元年以来3年ぶりで、今回で10回目の開催となりました。6校から計29名の高校生議員が参加し、リニア中央新幹線開通に伴うまちの活性化等の質問があり、本会議終了後には、「若者の政治への参加」をテーマに県議会議員との意見交換も行われました。

議場コンサートについては、平成25年より、2月定例会の開会日に開催しています。今回で11回目の開催となり、奈良県出身の南城愛（なんじょうあい）さん、優（ゆう）さんの姉妹によるグランドハーブとフルートの演奏が行われました。耳なじみのある曲も多かったため、議場は大いに盛り上がりました。

私が出席した行事で特に印象に残っている行事をいくつか紹介しますと、五條市で整備が進められている「大規模広域防災拠点」につきましては、用地契約が成立し、本格的な事業開始段階に進んできたことから、昨年10月に事業開始式が開催されました。今後発生が予想される南海トラフ巨大地震をはじめ、大規模な自然災害に備えた防災拠点としての効果が期待されています。

三重県、和歌山県、奈良県の三県議会では、紀伊半島三県議会交流会議を毎年開催しています。昨年7月の会議では、観光振興や熊野川流域の総合的な治水対策及び土砂災害対策について、三重県・和歌山県の議会と連携して国に要望することが合意されました。このことを受け、昨年11月に、観光庁と国土交通省に要望書を提出しました。

東アジア地方政府会合については、コロナの影響により、2年間延期となっていました。本会合は、昨年11月にインドネシア西ジャワ州の主催により開催されました。本会合は、東アジア各国の地方政府の代表が、地域の実情や課題を報告し合い、共通する課題の解決に向けた議論を行うことで、相互理解を深め、地方政府の行政能力を高めることを目的としています。今回は、コロナ禍・ポストコロナにおける地域の観光振興や産業振興がテーマとして掲げられ、活発な意見交換が行われました。

昨年12月には、国連世界観光機関主催の第7回UNWTOガストロノミーツーリズム世界フォーラムが奈良県で開催されました。日本での開催は、今回が初めてとなります。「人と地球のためのガストロノミーツーリズム：革新し、活躍を推進して、維持する」をテーマに、持続可能な社会の発展や価値ある資源としての食材利用等のセッションやフィールドワークが実施され、約30ヶ国から450人以上が奈良県コンベンションセンターに集まりました。

今任期中、記者の皆さま方には大変お世話になり、ありがとうございました。今後とも引き続きよろしく願い申し上げます。

(西川副議長)

昨年7月の就任以来、副議長として議長のサポートに努めてまいりました。先ほど、議長からもお話がありましたが、県内外における公式行事等に出席する機会も徐々に増え、コロナ禍以前の水準に戻りつつあると感じています。

就任から今日までを振り返るなかで、特に印象に残っていることとしましては、今年1月に、奈良県市町村政策自慢大会に議長代理として出席し、審査員として講評を述べる機会がありました。

市町村の若手職員の発表を聞きながら、各地域が抱える困難な課題に対して、独自の視点から取り組み、解決に結びつけたいという熱い思いを肌で感じることができました。県と市町村が、これまで以上に、お互いに連携を深めていくための取組の重要性を改めて認識したところです。

また、県全体に目を向けますと、私も昨年10月の事業開始式に出席させていただいた大規模広域防災拠点整備事業をはじめ、県域水道の一体化や、大和平野中央田園都市構想など、奈良県の将来的な発展につながるような事業に進展がみられた、重要な時期であったと感じております。

そのような時期に、副議長の要職を担うことが出来たことを、改めて光栄に思いますとともに、任期中は、記者の皆様方には大変お世話になりました。この場をお借りしまして、御礼申し上げます。ありがとうございました。

(終了)